

【令和5年の月議会 一般質問要旨】

中村 今般の市議選では、自民党より公認をい  
ただいて当選させていただいた。そこで自民  
党議員として、自民党の主導による小中学校  
の給食費無償化についてお尋ねする。茂木幹  
事長が本部長を務める自民党「こども・若者」  
輝く未来創造本部は、今年（令和5年）3月  
29日に小中学校の給食費無償化を盛り込んだ  
提言を、小倉こども政策担当大臣に提出した。  
そして、小倉大臣が同月31日に発表した「こ  
ども・子育て政策の強化について（試案）」で  
は、「地方自治体の取組への支援」としての「学  
校給食費の無償化に向けた」方向性が打ち出  
された。この点、執行部の展望を伺う。

教育部長 議員ご案内の通り、今年の3月31日  
にこども政策担当大臣から発表された試案に  
おいて、学校給食費の無償化に向けた実態の  
把握と課題の整理を行うという方向性が示さ  
れた。市では今後の国の動向に注視し、必要  
な対応をしてみたいと考えている。

中村 国の動向を注視し対応していくとの答弁  
であった。当方は令和3年3月議会の一般質  
問において、全児童生徒の給食費無償化に必  
要な予算をお尋ねしたところ、概ね年間2億  
円というご答弁をいただき、「現在我が市の財  
政は到底そういう状況ではない。無理だと考  
えるべきだ」と申し上げた。しかし、国から  
の財政的なバックアップの体制が構築される  
のであれば、話は全く別だ。あの時申し上げ  
た通り、「ぜひとも実現していただきたい夢の  
よつな政策」という話になる。全額補助と  
なるのか割合的補助となるのかはおっしゃる  
通り注視が必要だが、いずれにせよ自民党の  
主導の下、国からの財政的なバックアップの  
枠組が構築された場合には小中学校の給食費  
無償化を導入するか否かを、市長にお尋ねす  
る。

市長 国は、今後3年間で加速して取り組むこ  
ども・子育て施策の一つとして、学校給食の  
無償化に向けた実態の把握と課題の整理を行  
うことを掲げた。私も、子育て世代への経済  
的支援として学校給食を無償化することは、  
有効な施策の一つであると認識している。こ  
れまでも、新型コロナウイルス対応地方創生  
臨時交付金を利用した一部補助を実施してき  
た。また、今議会にもご提案しているように、  
今後同様の国の補助が利用できる場合には、  
学校給食費に対する保護者負担を減らすこと  
ができるよう、施策に取り組んでいく。私は、  
かねてから、学校給食費に対する保護者負担  
の軽減は、地方自治体が個々に対応するの  
ではなく、国が全国一律に対応すべき課題と  
考えており、今回の国の動きは歓迎してい  
るところだ。なお、この度の学校給食費の無償  
化については、実態の把握と課題整理が始ま  
るところなので、国の動向に注視し、具体的  
な計画が示されたら、市として対応について  
判断していきたいと思う。

中村 市長がかねてから考えていた方向性と合  
致して歓迎することなので、是非そ  
の節にはよろしく願います。

◇ ◇ ◇  
文部科学省の調査によると、平成29年度に給  
食費を完全無償化していたのは76自治体（4.4%）  
に過ぎなかったのに対し、令和5年度では547自  
治体（30.5%）と急増しています。一部無償化も  
含めるとその数はさらに増え、775自治体（43.2%）  
で導入済みです。このうち、無償化の目的につ  
いては、「保護者の経済的負担の軽減、子育て  
支援」と回答したのが652自治体、「少子化対策」  
と回答したのが66自治体でした。

このように給食費を無償化する自治体が急増  
する理由を、私は次のように分析しています。  
◇ ◇ ◇

【第2ビジョン「子育て最重視の市政へ」冒頭】

国の失政による少子高齢化の結果、現在、自  
治体政治は「若者の困い込み」の大競争時代に  
入っています。子育て重視の政策を打つことで  
若者が増えれば、若者一人当たりの負担は減り、  
年金世代一人当たりの福祉は向上し、市の財政  
はサステナブルになります。反対に、子育て重  
視の政策を打てなければ、若者は減り、若者一  
人当たりの負担は増え、年金世代一人当たりの  
福祉は悪化し、市の財政は悪化し、さらに若者  
が減る、という負のスパイラルに巻き込まれて  
消滅可能性都市に転落します。つまり、少子高  
齢化時代の市政の成否は、子育て重視の市政を  
どれだけ打てるかにかかっています。

◇ ◇ ◇  
少し乱暴な言い方をすれば、「早く給食費を  
無償化しないと、白岡市も消滅可能性都市に転  
落しますよ」ということです。とりわけ「この数  
年で給食費無償化の波が一気に来ておりますの  
で、このタイミングで無償化しておかないと、  
比較劣位により若者はどんどん流出してしま  
いますし、若者の流入も見込めなくなります。  
別に難しい話ではありません。若い方々から  
「この街で子育てして良かった」と感じていた  
だけのような、子育て世代を最大限にいたわる  
素敵な白岡市にしていけば良いのです。

◇ ◇ ◇  
昨年の一般質問は、まだ文部科学省の調査が  
行われる前で、「国からの財政的なバックアッ  
プの枠組が構築された場合の小中学校の給食費  
無償化は」などという悠長な訊き方をしました  
が、もはや事態は一刻を争います。食材費の地  
域間格差が大きく、国の統一的な無償化制度の  
構築がかなり困難であることが判明した以上、  
3割の先進自治体と歩調を合わせて給食費無償  
化に先行して踏み切ることが必要です。

◇ ◇ ◇  
ところで、ここでいう「国の失政による少子  
高齢化」とは、以下の内容を指しています。

【第1ビジョン「豊かな暮らしを取り戻す」抜粋】

◇ ◇ ◇  
国の失政により、1980年代には「年金世  
代・責任世代」の人口比率が1・7であったの  
が、現在では1・2にまで悪化しました。2人  
の若者で1人の高齢者を支える構造で、かつて  
の頃より若者の負担が劇的に増えた（「若者の  
貧困」）主たる要因となっています。私は、若  
者の負担を軽減し、年金世代の福祉を改善する  
ため、白岡市ではこの比率を1・3まで改善し  
たいと考えています。その帰結として、20年後  
に白岡市には1万5000人の若者が増え、人  
07万人都市となる将来像を描きます。この観  
点から、藤井政権下で策定された総合振興計画  
その他の計画については、すべて見直し改訂  
します。

◇ ◇ ◇  
私は、この「年金世代・責任世代」という指  
標は、市の将来をト（うらな）う上できわめて  
重要な指標であると考えます。

◇ ◇ ◇  
【第2ビジョン「子育て最重視の市政へ」抜粋】  
この「若者の困い込み」の大競争」時代の  
流れを読み、小島前市長は子育て重視の市政を  
展開しましたので、白岡市は若者を惹きつけ、  
年金世代と責任世代の比率は1・2.11と全国的に  
好位置につけています。全国的に子育て政策で  
有名な明石市でも1・2.28です。  
私は小島市政を継承し、「安心して子育てで  
きる環境の整備」を最重視して市政を展開しま  
す。

◇ ◇ ◇  
「7万人都市化による人口動態の改善」を目  
標に、若者がどんどん増えていく魅力豊かで活  
気ある白岡市になるよう、しっかりと頑張つて  
まいります。引き続きご支援の程、何卒よろし  
くお願い申し上げます。  
（つづく）